

ふるさと鹿角を 次代につなぐ まちづくりを

鹿角市議会議長 宮野和秀



明けましておめでとうございます。
市民の皆さまには、夢と希望に満ちた爽やかな新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、平素より市議会に對しまして、貴重なご意見やご提言を賜り、厚く御礼を申し上げます。昨年は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、世界中で非常事態宣言が発せられるなど、今まで経験したことのない状況が続く、社会にさまざまな影響を及ぼしております。

本市においても、市民生活や地域経済に多大な影響を及ぼし、先の見通しが立たないこの状況に大きな不安を抱えておられることと存じます。このような中、事業を停止しておりました旧パークホテルの営業再開の決定は、中心市街地の活性化の観点からも非常に明るい話題となりました。

また、昨年9月には、大湯環状列石を含む17資産で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」において、ユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査が行われました。今後は、現地調査の評価などを経て、早ければ本年秋頃に正式登録となる見込みですが、市議会といたしましても登録に向けた機運醸成を図りながら、関係機関とともに強力に後押しをしてまいりたいと考えております。

さて、令和3年度から向こう10年間の本市のまちづくりの指針となる第7次鹿角市総合計画基本構想が去る12月定例会において全会一致で可決されました。

第7次鹿角市総合計画に掲げるさまざまな施策によって、誰もが生涯にわたり活躍できる将来都市像「ふるさとを誇り 未来を拓くまち鹿角」を次代につなぎ、魅力あるまちづくりが推進されていくものと、大いに期待するところであります。

市議会といたしましても、コロナ禍の早期収束と市民生活および地域経済の発展、さらには新総合計画の実効性を一層高めていくため、執行部と共に全力で取り組む所存であります。

そして、皆さまの声を市政に届ける役割を果たすべく、積極的に政策提言を行えるよう、今まで以上に研さんに努め、鹿角市議会基本条例の目的である議会の活性化、市民福祉の向上、市民が安全で安心して暮らせる活力のあるまちづくりの実現に向けて、これからの市民の皆さまの声を大切にしながら、議会の使命と責任の重大性を肝に銘じ、邁進してまいります。

皆さまには、どうぞ今後とも変わらないご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆さまのご多幸と鹿角市のさらなる発展をお祈りしつつ、年頭のご挨拶といたします。

新しい時代に 対応したまちづくりを

鹿角市長 児玉 一



明けましておめでとうございます。
皆さまには、健やかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、本市が誇る世界級遺産の魅力を再認識した年でありました。2月に、国指定重要無形民俗文化財である「毛馬内の盆踊」を含む「風流踊」が、ユネスコ無形文化遺産の国内候補に選定されました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった鹿角の夏を代表する「花輪ばやし」と「毛馬内の盆踊」の実演をライブ配信したところ、祭りの魅力を体感した多くのファンから反響がありました。さらにユネスコの諮問機関であるイコモスの調査員が、世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の1つである「大湯環状列石」を調査するなど、本市の歴史・文化が国内外から高い評価を得ていると感じております。

さて、来月には、「第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会」と「第94回全日本学生スキー選手権大会」が花輪スキー場で連続開催されます。特にスキー国体については、旧町村時代を含めると通算6回目となり、また国体史上初となる2年連続の開催となります。こうした全国規模の大会は、鹿角を全国にアピールできる絶好の機会と捉えており、これまでの開催経験を生かしながら、全国から集う選手・役員を温かく迎え、鹿角ならではの大会となるよう進めてまいりますので、皆さまのさらなるお力添えをお願いいたします。

えをお願いいたします。

新年度から始まる新たな総合計画では、目指す将来都市像を「ふるさとを誇り 未来を拓くまち鹿角」と定め、すべての市民がふるさとに誇りを持ち、一人ひとりが幸せで、未来に希望を抱いて暮らせるまちづくりに挑戦いたします。

そのために、産業の自走力を強化し、安定的な雇用の創出を図るなど、健康で文化的な暮らしの基盤をつくる取り組みを進めるとともに、本市の持つ優位性・独自性を発揮して、都市の経営力を高める取り組みとして、比較優位産業である農業や観光業、スポーツによる人・モノ・外貨の獲得や、豊かな歴史文化を生かした「世界遺産のまち」を目指してまいります。

現下の状況により、新たな生活様式や活動の制限などを受け、改めて地域に注目してみると、本市は他に誇れる豊富な観光資源や伝統文化などを有し、まだまだ発展する可能性を秘めたまちだと確信しております。

来年、鹿角市は、市制施行50周年という大きな節目を迎えますが、引き続き、皆さまの協力をいただきながら、この難局を乗り越え、ふるさと鹿角への誇りと愛着を育み、新たな時代を迎えたいと考えております。

結びに、皆さまにとりまして、新しい年が希望に満ちた輝かしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。